

⑬ 仮卒業、仮修了

同年十一月二十四日、学徒出陣（同年十二月）のため三学年生徒に仮卒業証を、二学年以下の生徒には仮修了証を授与した。

⑭ 学徒出陣

戦況緊迫化に伴って政府は昭和十八年九月、学生生徒の徴兵猶予の停止を決定し、次いで十月二日、勅令を以て「在学徴集延期臨時特例」を公布し、徴兵猶予措置を廃止した。そのため、満二十歳に達した者は一勢に徴兵検査を施行され、同月十二日に閣議決定され



経緯工芸同人出陣壮行会記念（吉田丈夫氏提供）  
 前列左より丸山不忘、高村豊周、染川鐵之助、田澤清美、河内三郎、篠井欽司  
 後列左より吉田丈夫、田中芳郎、渡辺守治、伊藤豊、辻光典



中塩喜六入隊記念（中野將氏提供）  
 前列（坐位）右より原国政哲、手島修、中塩喜六、永田大石、松田博  
 後列右より中野將（腕章は「東京美術学校報国際隊中隊員」）、阿井正典、石塚清明、安田光男、岩田健、小川智

た「教育ニ関スル戦時非常措置方策」に基づいて理工科系および教員養成諸学校の学生を除く一般学生は兵役につくことになった。同年十二月一日には第一回学徒出陣が実施され、学生、生徒たちは一斉に入営（陸軍）、入団（海軍）し、また、それに先き立って十月二十一日、明治神宮外苑競技場で出陣学徒壮行会が行われた。本校も例外ではなく、「各科生徒級別現員表」（910頁）に明らかなように、これより登校者数は激減し、また、登校者たちも長期の勤労働員に従わざるを得なかったため、美術学校としての機能は麻痺した。

次に掲げるのは（一）草野睿三氏（油画科）からの聞き書きと（二）中野將氏（彫刻科）の文である。出征の際も本校生の間には独特のやり方があったようだ。

（一）昭和十八年九月、上級生（四年生）が繰上卒業したため、我々三年生は最上級生となった。その十二月に第一次学徒出陣があったが、我々十五年入学組は十二月「正式には十一月二十四日」に仮卒業となり、軍隊へ行っている最中の十九年九月に自動的に卒業となった。我々だけが卒業制作もせず、追いつかれるように卒業させられたのである。

満二十歳以上が動員されるということは新聞で知り、それまでは何も知らされなかった。美校は浪人が多いので、予科生も半